



角野栄子 作 佐竹美保 画

映画「魔女の宅急便」は平成元年公開
 でした！2017年には原作の最新刊
 が出ています。（発行：福音館書店）

『平成最後』なんて言葉を最近よく聞きますが、みなさんは、平成のうちにたくさん本を読めましたでしょうか？ひとつ前の昭和は、戦争などもあり『激動の昭和』と言われましたが、平成はインターネットやスマートフォンなど、情報技術の進歩が目立ちました。電子書籍なんて、SFの世界の話だったのですが、あつという間に現実のものになってしまいました。次の時代はいったいどんなふうになるのでしょうか？楽しみがいっぱいですね。

平成最後、そして次へ！

名張市学校図書館だより 中学校版 平成三十一年三年度末号 発行：教育センター



返却忘れ、ありませんか？

☆名張市内小中学校の春休みは、本の貸し出しがありません。

3月中に必ず返しましょう。また、長い間借りっぱなしの本はありませんか？特に3年生は卒業までに返すのを忘れないようにしましょう。（何年前の卒業生が、ずっと借りていた本を持ってこることもあります。）

かばんの中、教室、机の中、おうちの中、よく確認してください。もし、自分が本を借りているかどうか分からなかったら、図書室で聞いてみましょう。



立つ鳥跡
 にご
 を濁さず！
 忘れずに返
 そうね！



● 今回のお知らせ
 ● 返却しましょう
 ● 卒業の本紹介



一年間、図書室に来てくれてありがとう！



「卒業」する君たちへ



たくさんのドア
So Many Days

著 アリスン・マギー
絵 ユ・テウン
訳 なかがわ ちひろ

『たくさんのドア』

著：アリスン・マギー

絵：ユ・テウン

訳：なかがわ ちひろ

発行：主婦の友社

平成27年度のとしょだよりでも、同じテーマで本を紹介しましたが、そのうちの一冊に『たくさんのドア』という絵本がありました。

この絵本は、これから先、楽しいことばかりではなく、時には困ったことや、辛いことなど「たくさんのドア」を開けるであろう人に、エールを送る本です。毎年卒業シーズンが近づくと人気が出る本でしたが、海外の翻訳絵本は制約上、一度品切れになるとなかなか手に入らない状態になってしまいます。そのため、以前のとしょだよりで紹介したとき、この絵本はすでに出版社にも在庫がなく、市立図書館では予約待ちになるほどでした。

しかし、「ぜひ卒業生に読み聞かせをしたい」などのリクエストが全国から出版社にたくさん届き、なんと2018年1月に再版されました。今では、書店にもコーナーができるほどの人気です。卒業生だけでなく、これからの未来を生きるみなさんに読んでほしい一冊です。



『空の絵本』 作：長田 弘 絵：荒井 良二 発行：講談社

以前紹介した、小学校1年生の教科書にのっている『あさになったのでまどをあけますよ』（作：荒井良二 発行：偕成社）と同じ、荒井良二さんが絵を描いています。この絵本は東日本大震災の後に作られました。作者の長田さんは、『朝が明けて、昼下がりになり、夜が来て、一日が終わる。それは平凡で退屈な一日なんかじゃなくて、ほんとうは、とんでもなく大切な一日だということ、今さらながら思い知らされた。そんなそんなありふれた奇跡、なんでも

もないミラクルを伝える、かけがえのない一日の絵本』と語られています。みんなが過ごす一日は、なんでもない奇跡の一日。読んだ後、思わず空を見上げたくなる絵本です。



わたしはあかねこ

サトシン作
西村敏雄 絵

『わたしはあかねこ』 作：サトシン 絵：西村 敏雄 発行：文溪堂

「わたし」はあかねこ。とうさん、かあさん、きょうだいたちはみんな白と黒。「わたし」だけが赤かった——。そんなあかねこに、みんなは良かれと思って白と黒になる方法をすすめてきますが、あかねこは「そのままのじぶんがよかったの」と、赤いままでいることを選びます。みんなと違っていい、みんなと違っててもまちがいじゃない。個性を大切に、多様性を大切にするとはどういうことか？この絵本で理解の糸口がつかめるかもしれません。

編集後記



平成もあと少しですね。次の4月発行の子ども読書の日号で、このとしょだよりも平成最後となります。実は、平成の元号を決めるとき、他にも「修文（しゅうぶん）」「正化（せい化 または しょうか）」という2つの候補がありました。この2つが選ばれなかった理由のひとつが、頭文字のアルファベットにあります。明治・大正・昭和はそれぞれM・T・Sですが、修文と正化は昭和と同じSなので、コンピュータのプログラムで認識するのに困るからです。ということは、次の元号はM・T・S・H以外になりますね。みんなで予想してみたいかが？